

神経精神科



診療科動画



診療科 HP

1. スタッフ



診療科長(教授) たけばやし 竹林 みのる 実

准教授1名、助教7名、
医員15名、
大学院生2名、
心理士2名、
精神保健福祉士5名、
作業療法士3名

2. 診療科の特徴、診療内容

気分が落ち込む、眠れない、物忘れが気になる、周囲とのコミュニケーションがうまく行かない、などさまざまな精神症状でお悩みの方の相談および治療を行っている。十分時間をかけてお話を伺い、わかりやすく丁寧な診療を行っている。

近年問題となっている、うつ病などの「気分障害」、「認知症」、「児童・青年期」の専門外来を開設し、「熊本県認知症疾患医療センター」ならびに「熊本県発達障がい医療センター」を熊本県から委託され、熊本県民への貢献を目的としている。

また、上記に加え、統合失調症、神経症、てんかんなどの治療のみならず、精神疾患を有する方の身体疾患治療中のメンタルケア（精神科リエゾンチーム）、がん患者のメンタルケア（緩和ケアチーム）など、他の診療科、コメディカルスタッフ（看護師、保健師、薬剤師、心理士、精神科作業療法士、精神保健福祉士）と協力して幅広い精神科チーム医療を行っている。

診断方法として、心理検査、画像検査（頭部MRI、脳SPECT、DAT-SPECT、MIBG心筋シンチグラフィ、光トポグラフィ）、脳波、血液・髄液検査などを適切に組み合わせる。

治療方法として、精神療法、薬物療法（難治性統合失調症治療薬クロザピンを含む）、ニューロモデュレーション治療（修正型電気けいれん療法:ECT、反復経頭蓋磁気刺激療法:rTMS）、心理療法、精神科リハビリテーション、ソーシャルワーク、気分障害を対象としたリカバリープログラムなどを適切に組み合わせる。

3. 診療体制

○ 外来診療体制

【月曜】遊亀 本田 宮川

【火曜】休診

【水曜】竹林 本田 宮川 佐々木

【木曜】竹林 朴 遊亀

【金曜】遊亀 今井 佐々木

【専門外来初診日】気分障害-水、木、金
認知症-月、児童・思春期-金

○ 病棟診療体制

一般病棟と類似した構造の精神科病棟（50床、うち10床個室）の入院設備を有し、精神保健指定医が入退院の決定に責任を持って入院治療を行っている。教官、シニア医員、後期研修医によるグループ診療制をとり、毎週火曜日に病棟全体回診、合同カンファレンスを行い、診断や治療方針について常にディスカッションし、患者のための最良の入院治療を行っている。気分障害、認知症、児童思春期の患者のみならず、ECT、クロザピンなど治療緊急性が高い精神疾患患者、認知症の検査入院、他診療科からの身体合併症を有する精神科患者の入院依頼を積極的に受けている。また、うつ病の新しい治療法であるrTMSを積極的に行っている。加えて、入院治療においても多職種によるチーム医療を実践している。

4. 診療実績

○ 疾患別患者数

2023年4月1日～2024年3月31日

外来初診患者：161名

- ・ 症状性を含む器質性精神障害(F0) 89名
- ・ 精神作用物質使用による精神及び行動の障害(F1) 3名
- ・ 統合失調症圏(F2) 21名
- ・ 気分障害(F3) 22名
- ・ 神経症性障害、ストレス関連および身体表現性障害(F4) 13名
- ・ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(F5) 2名
- ・ 成人の人格及び行動の障害(F6) 8名
- ・ 知的障害(F7) 13名
- ・ 心理的発達の障害(F8) 3名

入院診療患者：193名

- ・ 症状性を含む器質性精神障害(F0) 70名
- ・ 精神作用物質使用による精神及び行動の障害(F1) 2名
- ・ 統合失調症圏(F2) 17名
- ・ 気分障害(F3) 70名
- ・ 神経症性障害、ストレス関連および身体表現性障害(F4) 14名
- ・ 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(F5) 7名
- ・ 成人の人格及び行動の障害(F6) 2名
- ・ 知的障害(F7) 5名
- ・ 心理的発達の障害(F8) 3名
- ・ 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害(F9) 3名

○ 主要な疾患の治療実績(成績)

難治性および急性期の気分障害・統合失調症に対し、ECTを実施している(年間20例、287回の施行)。

認知症疾患の検査入院を実施している。入院期間は2~4週間で、常時7~8名の入院がある。

精神疾患患者の身体合併症治療のための入院を常時2~3名受け入れている。精神疾患を合併した妊産婦の入院も適宜受け入れている。

○検査の実績等

気分障害・認知症専門外来において、神経心理学的検査、頭部MRI、脳SPECT検査を初診のほぼ全例に実施(約300例/年)。

5. 高度先進的な医療の取組

最新の診断補助検査である光トポグラフィー検査と、中等症うつ病の最新の治療であるrTMSを2022年1月から開始し、積極的に施行している。rTMS治療後の再発予防のための維持rTMSを先進医療Bとして2023年から開始している。

6. 臨床試験・治験の取組

新規ニューロモデュレーション治療の臨床試験を準備中。

7. 地域医療への貢献

- ・ 基幹型認知症疾患医療センターならびに発達障がい医療センターを設置。
- ・ 年2回、熊本精神神経学会を開催。
- ・ 認知症事例検討会を年4回、かかりつけ医向け認知症研修を年2回、認知症サポート医研修を年1回開催。
- ・ 球磨郡あさぎり町保健センターで毎月1回こころの健康相談を実施。
- ・ 月に1回、八代市で発達障害医療の提供と、医療者教育を実施。
- ・ 医師会および行政主催の講演会は診療科全体で2~3回/年を実施。

8. 医療人教育の取組

月に1回、精神科臨床セミナーを開催し、県内外より講師を招き、主に前・後期研修医や医学部学生、地域医療人を対象に、精神医学に関するWEBセミナーを実施。

- ・ 日本精神神経学会専門医研修施設
- ・ 日本総合病院精神医学会専門医研修施設
- ・ 日本老年精神医学会専門医研修認定施設
- ・ 子どものこころ専門医

9. 研究活動

毎月1回第一月曜日に神経精神科リサーチカンファレンスを実施。精神医学、脳科学、心理学、薬学、工学を統合して、客観的診断法および新しい治療法を創出することを目的とする。熊本大学分子脳科学講座、国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター、全国の研究機関などと幅広く共同研究を行いながら、臨床研究および基礎研究のトランスレーショナルな視点で下記のテーマで推進する。

- 1) 気分障害におけるグリア・炎症に着目したバイオマーカー・創薬研究
- 2) ニューロモデュレーション(ECT, rTMSなど)の治療・再発予防・メカニズム・新規治療器開発に関する臨床・基礎的研究
- 3) 気分障害・統合失調症のエピゲノムに着目した病態研究
- 4) 脳波マルチスケールエントロピー解析を用いた精神疾患の診断および薬物・ニューロモデュレーション治療の効果判定法開発
- 5) 高齢者の大規模認知症・うつ病コホート研究(熊本県荒尾市)
- 6) 高齢者うつ病と自殺予防に関するフィールド研究(熊本県あさぎり町)
- 7) せん妄の臨床的・基礎的研究
- 8) リエゾン精神医学における臨床研究
- 9) 児童・思春期うつ病に関する臨床および病態研究
- 10) 認知症の臨床症候と脳画像に関する臨床研究
- 11) 認知症と発達障害の関連性に関する臨床研究
- 12) 認知症のケア、介護負担、リハビリテーション法の確立に関する臨床的研究